



# TEC-FORCE

## 被災地支援に挑んだ 10年の記録

～「ありがとう」を力に変えて～



Technical Emergency Control-FORCE

# 被災地支援に挑んだ10年の記録

## ～「ありがとう」を力に変えて～

### 目次

#### TEC-FORCEの役割

- |                   |                    |
|-------------------|--------------------|
| ●被災地のために。 ..... 2 | ●早期復旧に貢献。 ..... 7  |
| ●全国から迅速な支援。 3     | ●被災自治体をサポート。 8     |
| ●上空から調査。 ..... 4  | ●最新技術を活用。 ..... 9  |
| ●命の道を啓く。 ..... 5  | ●官民総力あげて。 ..... 10 |
| ●昼夜を問わず緊急排水。 6    |                    |

#### 10年の活動記録

- |                               |                            |
|-------------------------------|----------------------------|
| 平成20年<br>●岩手・宮城内陸地震 ..... 12  | 平成26年<br>●広島土砂災害 ..... 22  |
| 平成21年<br>●中国・九州北部豪雨 ..... 13  | 平成26年<br>●御嶽山の噴火 ..... 23  |
| 平成22年<br>●奄美地方の大雨 ..... 14    | 平成26年<br>●長野県北部地震 ..... 24 |
| 平成23年<br>●東日本大震災 ..... 15     | 平成27年<br>●関東・東北豪雨 ..... 25 |
| 平成23年<br>●台風第12号 ..... 17     | 平成28年<br>●熊本地震 ..... 26    |
| 平成24年<br>●九州北部豪雨 ..... 18     | 平成28年<br>●台風第10号 ..... 28  |
| 平成25年<br>●山口・島根豪雨 ..... 19    | 平成29年<br>●九州北部豪雨 ..... 29  |
| 平成25年<br>●台風第26号 ..... 20     | ●培った技術で国際貢献。 30            |
| 平成26年<br>●2月豪雪、12月豪雪 ..... 21 |                            |

#### 首長からのメッセージ集

#### TEC-FORCE年表



Technical Emergency Control-FORCE

**TEC-FORCE**

TEC-FORCEの役割

...

# 被災地のために。

被災地支援に挑んだ10年の記録  
～「ありがとう」を力に変えて～



●被災自治体の首長に道路啓開の完了を報告



●ドローン映像による被災状況を住民に説明

テックフォース  
TEC-FORCE(緊急災害対策派遣隊)は、  
大規模な自然災害が発生した場合や発生するおそれがある場合に派遣され、  
「被災状況の迅速な把握」や「被害の発生及び拡大の防止」、  
「被災地の早期復旧」などに取り組み、地方公共団体を支援します。



●TEC-FORCE 隊員による被災状況調査

# 全国から迅速な支援。

被災地支援に挑んだ10年の記録  
～「ありがとう」を力に変えて～



●ヘリで被災地へ向かうTEC-FORCE 隊員



●夜間にTEC-FORCE 隊員が被災地へ向け出発

災害が発生すると、TEC-FORCEに指名された隊員（国土交通省職員）が被災地へ出動し、迅速に支援活動を実施します。



●全国から集結したTEC-FORCE隊員

●全国から集結した災害対策車両

# 上空から調査。

被災地支援に挑んだ10年の記録  
～「ありがとう」を力に変えて～



○ヘリからのリアルタイム画像を配信し自治体職員に河川のせき止め(河道閉塞)の状況を説明

全国の地方整備局等が所有する8機の防災ヘリを運用し、  
迅速かつ広域的に上空から被災状況を把握します。



○防災ヘリ「みちのく号」



○上空から被災状況を確認

# 命の道を啓く。

ひら

被災地支援に挑んだ10年の記録  
～「ありがとう」を力に変えて～



○発災後ただちに道路啓開に着手

自衛隊、警察、消防の捜索・救助部隊や緊急物資の輸送車両が一刻も早く現地に入れるよう、ガレキや土砂で塞がれた道路を切り啓きます。



○TEC-FORCEが切り啓いた道路を緊急車両が通行

# 昼夜を問わず緊急排水。

被災地支援に挑んだ10年の記録  
～「ありがとう」を力に変えて～



○排水ポンプ車の集中投入による緊急排水

行方不明者の捜索や緊急物資の輸送を進めるため、排水ポンプ車を集中投入し、昼夜を問わず緊急排水を行います。



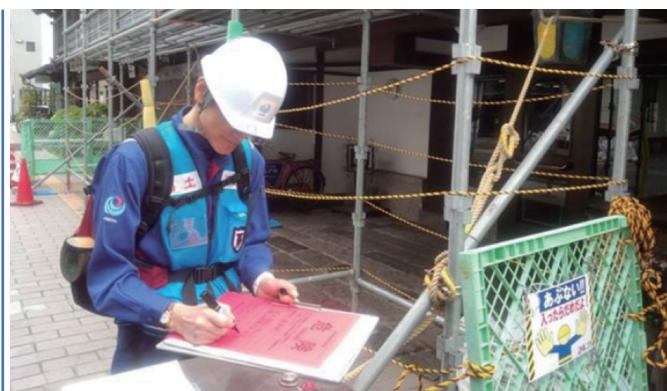
○24時間体制での排水活動

# 早期復旧に貢献。

被災地支援に挑んだ10年の記録  
～「ありがとう」を力に変えて～



○ガレキの中を突き進むTEC-FORCE隊員



○被災建築物の応急危険度判定

公共土木施設の被災状況を迅速に把握し、被災自治体が災害復旧事業に速やかに着手できるよう支援します。



○公共土木施設の被災状況調査

第一章/TEC-FORCEの役割

# 被災自治体をサポート。

被災地支援に挑んだ10年の記録  
～「ありがとう」を力に変えて～



◎リエゾンによる被災自治体や関係機関との連絡調整

被災自治体に派遣されたリエゾン(情報連絡員)が、被災地のニーズを的確に把握し、早期の復旧を支援します。



◎首長に被災状況の調査結果を報告

# 最新技術を活用。



被災地支援に挑んだ10年の記録  
～「ありがとう」を力に変えて～



◎ドローンによる斜面崩壊箇所の調査

ドローンや無人バックホウなどの最新技術を活用し、安全かつ迅速に被災箇所の調査を実施するとともに、危険箇所での捜索活動を支援します。



◎危険箇所における無人バックホウを用いた行方不明者の捜索

# 官民総力あげて。

被災地支援に挑んだ10年の記録  
～「ありがとう」を力に変えて～



○地域の建設業者による道路啓開

道路啓開などの災害応急対策を迅速かつ効果的に実施するため、地域の建設関連産業との連携強化に取り組んでいます。



○地域の建設業者による堆積土砂の撤去



Technical Emergency Control-FORCE

**TEC-FORCE**

10年の活動記録

...

平成20年 岩手・宮城内陸地震

# TEC-FORCE初出動。

## ～のべ1,499人・日を派遣～

- 発生日: 平成20年6月14日
- 地震規模: マグニチュード7.2 最大震度6強
- 被害概要: 人的被害(死者17人、行方不明者6人)  
住家被害(全壊30棟、半壊146棟)

(内閣府資料(平成22年6月23日)より)



●市道荒砥沢線の崩落



●祭時大橋の落橋



●荒砥沢ダム上流の大規模地すべり

## TEC-FORCE創設、初めての災害派遣。

のべ1,499人・日のTEC-FORCE隊員を被災地へ派遣し、土砂災害危険箇所の緊急点検や被災家屋の危険度判定、二次災害防止のための河川せき止め箇所の常時監視を行いました。

岩手県、宮城県、秋田県の道路被災現場においては、応急復旧工法等に関する技術指導を行いました。



●衛星通信車を活用した河川せき止め箇所の常時監視



●被災家屋の危険度判定



●河川せき止め箇所の  
リアルタイム映像を  
被災自治体に配信



被災地支援に挑んだ10年の記録  
～「ありがとう」を力に変えて～

平成21年 中国・九州北部豪雨

# 防災ヘリ出動！

～発災後ただちに上空から被災状況を把握～

- 大雨の期間：平成21年7月19日～26日
- 観測雨量：福岡県飯塚（24時間降水量338ミリ）
- 被害概要：人的被害（死者35人）  
住家被害（全壊52棟、床上浸水2,137棟）  
土砂災害（435件）  
(内閣府資料(平成22年3月26日)より)



●土砂災害現場における行方不明者の捜索 ●市街地の浸水



●国道262号への土砂流出

## 防災ヘリによる被災状況の把握、専門家派遣による技術的支援。

発災後ただちに防災ヘリにより、上空から被災状況の全体像を把握しました。  
大きな被害が発生した山口県防府市に土砂災害専門家を派遣し、警戒避難体制の強化や  
今後の応急対策等に技術的助言を行いました。



●防災ヘリによる土砂到達範囲の把握



●土石流による道路の被災状況調査



●特別養護老人ホームの被災

第二章／10年の活動記録

平成22年 奄美地方の大雨

# 濁流浸水した島へ。

## ～離島にも迅速に出動～

- 大雨の期間：平成22年10月18日～21日
- 観測雨量：鹿児島県奄美市名瀬（24時間降水量648ミリ）
- 被害概要：人的被害（死者3人）  
住家被害（全壊10棟、床上浸水119棟）  
土砂災害（56件）  
(内閣府資料(平成22年12月1日)より)



●土砂災害の状況（奄美市）



●土砂災害の状況（龍郷町）

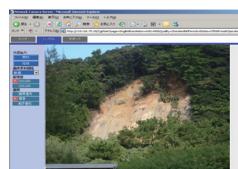


●奄美市住用地区付近の浸水状況

### 迅速な支援、カメラ付照明車による崩壊地の監視。

10月21日に鹿児島県からの要請を受け、九州地方整備局のTEC-FORCE隊員を奄美大島へ派遣しました。

現地では、被災状況調査のほか、土砂崩壊箇所の二次災害防止のため監視カメラを設置し、24時間体制で監視しました。



●防災ヘリによる被災状況調査



●カメラ付き照明車により斜面崩壊地を24時間体制で監視

Message  
メッセージ



防災ヘリコプターによる被災調査は、奄美市全体の被害状況を把握することが出来て非常に助かりました。また、災害応急対策に昼夜問わず尽力いただいたことは市民の励ましとなりました。

鹿児島県奄美市 朝山 肅 市長

第二章／10年の活動記録

 TEC-FORCE  
Technical Emergency Control-FORCE

平成23年 東日本大震災

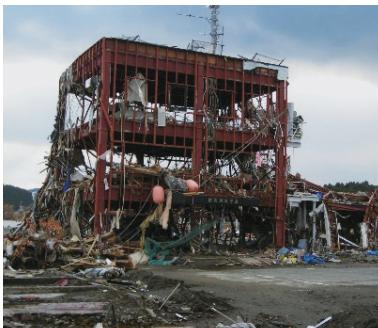
# 切り啓いた「命の道」。

～のべ18,115人・日(日最大521人)の派遣～

- 発生日: 平成23年3月11日
- 地震規模: マグニチュード9.0 最大震度7
- 被害概要: 人的被害(死者19,630人、行方不明者2,569人)  
住家被害(全壊121,781棟、半壊280,962棟)  
津波浸水被害 561km<sup>2</sup>  
(内閣府資料(平成30年3月5日)より)



●崩壊した国道6号



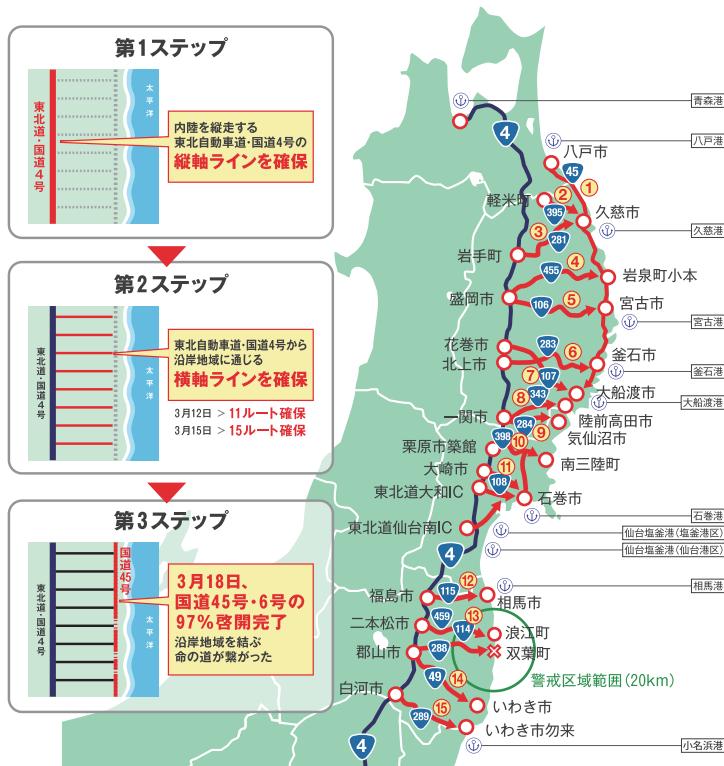
●被災した南三陸町の防災庁舎



●押し寄せる津波

## 命の道を切り啓け、「くしの歯作成」決行。

沿岸市町村への救命・救援ルートを確保するため、内陸部を南北に貫く東北自動車道と国道4号から沿岸部に伸びる国道の啓開をいち早く開始しました。被災7日後には15の横軸と2つの縦軸(国道6号、45号)の啓開を概ね完了しました。



●「くしの歯作戦」の概要



●切り啓いた後の国道

平成23年 東日本大震災

# 一刻も早く、機能回復へ。

～排水による空港機能の回復、リエゾンによる支援～

ポンプ車投入、排水量500万m<sup>3</sup>。

緊急物資の輸送拠点となる仙台空港の早期浸水解消に向け、全国から集結した排水ポンプ車を集中投入しました。3月17日からポンプ車25台が24時間体制で排水作業を行い約500万m<sup>3</sup>の水を排水した結果、被災から約1ヵ月後の4月13日、臨時便での一部就航が開始されました。



●津波で浸水した仙台空港



●排水ポンプ車の集中投入

4県31市町村へ、リエゾンを派遣。

被災した4県と31市町村にリエゾンを派遣し、支援ニーズの把握や様々な関係機関との調整を行いました。

災害発生直後から6月30日までの期間で、のべ3,916人のリエゾンが各地で自治体の災害対応を支援しました。



●被災自治体と排水計画の調整を行うリエゾン



●自治体職員から情報収集するリエゾン

Message  
メッセージ



行政機能がストップし途方に暮れていた私たちにとって、TEC-FORCEによる活動は心強い支えとなりました。

岩手県陸前高田市 戸羽 太 市長

平成23年 台風第12号

# 河川せき止め箇所の監視。

## ～急げ！仮排水路の緊急建設～

- 大雨の期間：平成23年8月30日～9月6日
- 観測雨量：三重県宮川（24時間降水量872.5ミリ）
- 被害概要：人的被害（死者82人、行方不明者16人）  
住家被害（全壊379棟、床上浸水5,500棟）  
土砂災害（208件）、河川せき止め箇所（17箇所）

（内閣府資料（平成24年9月28日）より）



●土砂災害による家屋の損壊



●河川氾濫の状況



●山腹崩壊による河川のせき止め

## 危険の兆候、河川せき止め箇所からの越流等を監視。

リアルタイム映像やセンサーによって、24時間体制で河川せき止め箇所の監視を続け、安全に住民が一時帰宅できるよう被災自治体に助言を行いました。また、河川せき止め箇所の水位を下げるため、仮排水路の建設に最優先で取り組みました。



●河川せき止め箇所のリアルタイム映像を常時監視



●住民の安全な一時帰宅を万全の体制で支援

Message  
メッセージ



平成23年の台風12号災害においては、  
災害発生直後からの迅速な支援に感謝し、  
今後もこれまでの経験を活かし、  
卓越した手腕を發揮される事を祈念いたします。

奈良県十津川村 更谷 慶禧 村長

第二章／10年の活動記録

 TEC-FORCE  
Technical Emergency Control-FORCE

平成24年 九州北部豪雨

# 市街地浸水！緊急排水。

～河川堤防の応急復旧を急げ～

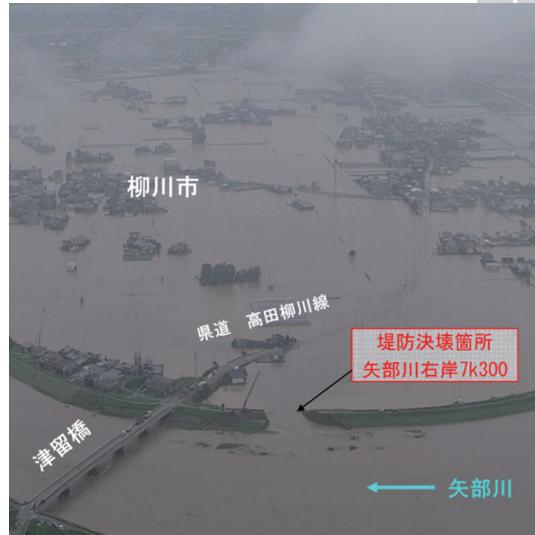
- 大雨の期間：平成24年7月11日～14日
- 観測雨量：熊本県阿蘇乙姫（24時間降水量507.5ミリ）
- 被害概要：人的被害（死者30人、行方不明者2人）  
住家被害（全壊363棟、床上浸水3,298棟）  
土砂災害（229件）  
(内閣府資料(平成24年8月16日)より)



●河川堤防の崩壊



●護岸崩壊による浸水の拡大



●堤防決壊による浸水の拡大

## 市街地の緊急排水を実施。

自衛隊や消防などによる救助活動が最優先に進められるよう、市街地の排水作業に迅速に着手しました。  
また、浸水を食い止めるため、大型土のうによる河川堤防の応急復旧を行いました。



●排水ポンプ車による市街地の緊急排水



●大型土のうによる河川堤防の応急復旧



●土のう製造機

Message  
メッセージ



事務所長からのホットライン、  
リエゾンの派遣、防災ヘリによる調査、  
TEC-FORCEによる被災調査支援に感謝申し上げます。

大分県日田市 原田 啓介 市長

第二章／10年の活動記録

平成25年 山口・島根豪雨

# 昼夜の応急復旧支援。

## ～様々な災害対策車両の投入～

- 大雨の期間：平成25年7月26日～8月3日
- 観測雨量：島根県津和野（24時間降水量381ミリ）
- 被害概要：人的被害（死者14人、行方不明者3人）  
住家被害（全壊73棟、床上浸水1,845棟）  
土砂災害（322件）  
(内閣府資料(平成25年10月7日)より)



●JR橋の流出



●河川護岸の崩壩



●家屋の損壊状況

### 全国の地方整備局等から TEC-FORCE隊員と災害対策車両を派遣。

発災後ただちにTEC-FORCE隊員を山口市、萩市、津和野町等に派遣し、被災状況調査に着手しました。また、衛星通信車、排水ポンプ車、照明車、待機支援車等の災害対策車両を派遣し、被災地の早期復旧を支援しました。



●道路被災箇所のリアルタイム映像を被災自治体に配信



●夜間も応急復旧を行うため照明車を派遣

Message  
メッセージ



今後も様々な災害に応じた専門性を有する  
TEC-FORCEのきめ細かい支援活動にご期待申しあげます。

島根県津和野町 下森 博之 町長

平成25年 台風第26号

# 土石流にのまれた島へ。

## ～搜索・救助活動を支援～

- 大雨の期間：平成25年10月14日～16日
- 観測雨量：東京都大島（24時間降水量824ミリ）
- 被害概要：人的被害（死者39人、行方不明者4人）  
住家被害（全壊86棟、床上浸水1,524棟）  
土砂災害（116件）  
(内閣府資料(平成25年11月25日)より)



●火山灰堆積土の崩壊



●道路への土砂流入



●住宅地への土砂流入

## 関係機関との連携、二次災害防止のための監視強化。

自衛隊や消防、警察などによる搜索・救助活動を支援するため、土砂災害専門家による現地調査と安全確認をいち早く実施しました。また、被災現場へカメラを設置し、ライブ映像を被災自治体に提供するとともに、住民の警戒避難体制について助言を行いました。



●搜索・救助活動に向けた関係機関との調整



●土砂災害危険箇所への監視カメラの設置

平成26年 2月豪雪、12月豪雪

# 孤立集落解消へ。 ～迅速な除雪と物資輸送で孤立集落を救え～

除雪による早期の道路交通確保、孤立集落への物資輸送。

積雪や倒木による交通遮断により発生した孤立集落を解消するため、迅速に除雪用機械を派遣し、自衛隊と連携を図り道路啓開を実施しました。また、自治体と協力し、孤立集落への物資輸送も支援しました。

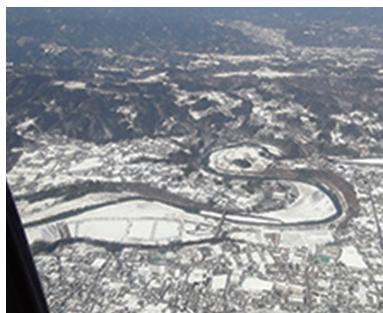


●孤立集落への物資輸送

- 大雪の期間: 平成26年2月14日～16日  
●観測 積雪: 山梨県河口湖(143cm)  
●被害概要: 人的被害(死者26人)  
住家被害(全壊16棟、半壊46棟)  
断水被害(最大14,255戸)

(内閣府資料(平成26年3月6日)より)

2月  
豪雪



●防災ヘリからの積雪状況調査



●国道139号(本栖湖付近)

12月  
豪雪

- 大雪の期間: 平成26年12月5日～11日  
●観測 積雪: 石川県白山市谷峰(146cm)  
●被害概要: 人的被害(死者2人)

(内閣府資料(平成26年12月12日)より)



●2車線道路を塞ぐ大型車



●立ち往生車両の安否確認



●自衛隊と連携した除雪作業

Message  
メッセージ



近年に起り得る、  
未曾有の災害に対して、  
更なる災害時の支援体制の  
強化に期待いたします。

埼玉県秩父市  
久喜 邦康 市長



専門的見地から「助言」並び  
「支援」を頂けるTEC-FORCEの存在は、  
災害現場で指揮を執る者として  
非常に心強い存在であります。

徳島県三好市  
黒川 征一 市長

第二章／10年の活動記録  
TEC-FORCE  
Technical Emergency Control-FORCE

平成26年 広島土砂災害

# 土石流危険渓流の緊急点検。

～避難指示の早期解除に向けて～

- 大雨の期間：平成26年8月19日～20日
- 観測雨量：広島県三入(24時間降水量257ミリ)
- 被害概要：人的被害(死者76人)  
住家被害(全壊179棟、床上浸水1,086棟)  
土砂災害(167件)

(内閣府資料(平成27年12月18日)より)



●国道54号への土砂流出



●土砂災害による家屋の損壊



●住宅地を襲う土石流

## 地域の建設業者との連携による土砂撤去。

土石流危険渓流(183渓流)の緊急点検及び危険度評価を10日間で行い、避難指示の早期解除に必要な技術的助言を行いました。また、土石流による大量の土砂が到達した住宅地においては、生活道路の通行確保等、早期復旧のため、地域の建設業者と連携し堆積土砂の撤去を実施しました。



●土石流危険渓流の緊急点検



●地域の建設業者との連携による土砂撤去



被災地支援に挑んだ10年の記録  
～「ありがとう」を力に変えて～

平成26年 御嶽山の噴火

# 迅速な降灰除去。

～生活道路の通行確保、二次災害防止～

●発生日：平成26年9月27日

●被害概要：人的被害(死者57人、行方不明者6人)

土砂災害(2件:土石流等)

(内閣府資料(平成26年11月6日)より)



●渓流内に堆積した降灰



●御岳ロープウェイの敷地に堆積した降灰



●御嶽山の噴火

## 生活道路の降灰除去支援、二次災害防止支援。

噴火直後より、救助活動支援や降灰状況等の調査を行い、土石流の危険性が高まっている渓流を抽出し、自治体や救助活動機関に情報を提供しました。また、土石流氾濫シミュレーションにより、土石流が発生した場合の氾濫危険図を作成して、関係機関に提供しました。



●降灰状況調査の実施



●路面清掃車による降灰除去作業

**Message**  
メッセージ



災害時に欠かせない国交省テックフォース。  
国民の生命財産を守るために必要不可欠だと思います。  
今後の活躍をご期待申し上げます。

長野県下高井郡瀬戸村長 濑戸 普 村長

第二章／10年の活動記録

 TEC-FORCE  
Technical Emergency Control-FORCE

平成26年 長野県北部地震

# きめ細やかな支援へ。

～村内の89橋の安全性を確認～

- 発生日: 平成26年11月22日
- 地震規模: マグニチュード6.7 最大震度6弱
- 被害概要: 人的被害(死者・行方不明者なし、負傷者46人)  
住家被害(全壊50棟、半壊92棟)

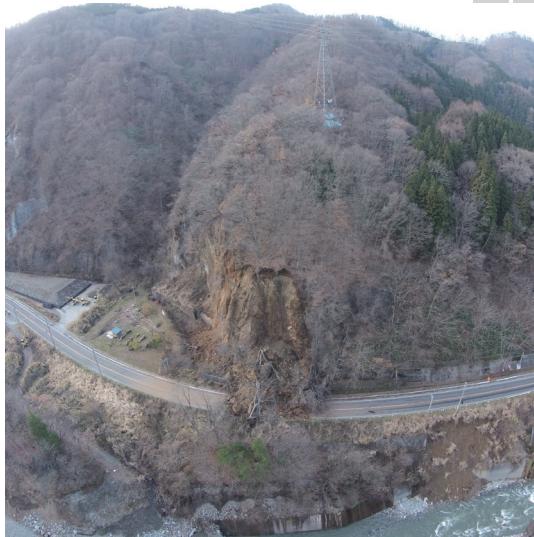
(内閣府資料(平成26年12月16日)より)



●土砂崩落現場



●家屋の損壊



●土砂崩落通行止め箇所(国道148号)

## リエゾンによる迅速なニーズの把握、詳細な調査結果の報告。

発災後ただちに、長野県及び長野市、白馬村、小谷村等にリエゾンを派遣し被災自治体のニーズを把握しました。

技術職員のいない小谷村に対しては、TEC-FORCE隊員が、課題となっていた車両通行可能な村内の89橋梁(村管理)の安全性を迅速に確認し、調査結果を報告しました。



●地元住民から被災状況の聞き取り



●下面から橋梁の安全性を調査するTEC-FORCE隊員

Message  
メッセージ



神城断層地震でTEC-FORCEに技術支援をいただき、  
頻発する自然災害の現状から、さらなるTEC-FORCEの  
体制・組織強化を図るべきと考えています。

長野県小谷村 松本 久志 村長

第二章／10年の活動記録



被災地支援に挑んだ10年の記録  
～「ありがとう」を力に変えて～

平成27年 関東・東北豪雨

# 堤防決壊、緊急排水！

～排水ポンプ車集結、24時間体制の排水～

- 大雨の期間：平成27年9月7日～11日
- 観測雨量：栃木県五十里（24時間降水量551ミリ）
- 被害概要：人的被害（死者8人）  
住家被害（全壊80棟、床上浸水1,925棟）

（内閣府資料（平成28年2月19日）より）



●家屋の損壊状況



●市街地の浸水（大崎市）



●鬼怒川の堤防決壊

## 発災前から排水ポンプ車を集結、24時間体制での緊急排水。

河川水位の状況から甚大な被害が予測されたため、発災前より排水ポンプ車を待機させ、堤防が決壊した当日から迅速に排水作業を開始しました。大崎市をはじめ宮城県内に排水ポンプ車（最大16台）を派遣し、24時間体制で排水作業を行い、5日間で浸水を解消しました。



●全国から集結した排水ポンプ車



●排水ポンプ車による24時間体制の緊急排水（大崎市）

Message  
メッセージ



速やかに駆けつけての昼夜分かたずの支援は、これまで経験のない災害対応に迫られた本市にとって心強い援軍となりました。

宮城県大崎市 伊藤 康志 市長

第二章／10年の活動記録

平成28年 熊本地震

# TEC-FORCE 全国から集結。

## ～1,155箇所の土砂災害危険箇所を9日間で点検～

●発生日：平成28年4月14日、16日

●地震規模：マグニチュード6.5、7.3 最大震度7

●被害概要：人的被害(死者267人)

住家被害(全壊8,673棟、半壊34,726棟)

土砂災害(190件)

(内閣府資料(平成30年4月13日)より)



●電車脱線による道路の通行不能



●熊本城の石垣崩壊



●大規模斜面の崩壊

### 早期復旧に向け、 全国からTEC-FORCEが被災地に集結。

九州地方整備局をはじめ全国からTEC-FORCE隊員が派遣され、  
日最大440人が被災地を支援しました。

リエゾンが収集した支援ニーズをもとに、緊急度の高い1,155箇所の  
土砂災害危険箇所を9日間で点検し、4月28日に県知事、13市町村長へ  
点検結果を報告しました。



●点検結果を被災自治体の首長に報告



●土砂災害危険箇所の緊急点検



●道路の被災状況調査

平成28年 熊本地震

# 保有するあらゆる資機材を駆使。

～先端機械の導入、海上からも緊急支援～

捜索活動支援へ、先端的な災害対策用機械を駆使。

斜面崩壊地など、二次災害の恐れがあり立ち入りが困難な箇所において、安全を確保しながら一刻も早く捜索・救助活動を進めるために、ドローンを活用した斜面崩壊状況の確認や、無人バックホウによる土砂撤去等、先端的な災害対策機械を投入しました。



●ドローンによる斜面の崩壊状況調査



●無人バックホウによる捜索・救助活動の支援

海上からも緊急支援。

被災地に救援物資をいち早く届けるため、全国の地方整備局が所有する船舶を使い、海上からの緊急輸送や給水支援を行いました。



●保有船舶を活用した水や食料の緊急輸送



●保有船舶を活用した給水支援

Message  
メッセージ



TEC-FORCEによる道路・河川・橋梁・トンネル・山腹崩壊箇所の被災調査、道路の復旧支援は、復旧の加速化と地域経済の復興に繋がっています。

熊本県西原村　日置 和彦　村長

第二章／10年の活動記録

平成28年 台風第10号

# 上陸前からリエゾンを派遣。

## ～早期の派遣、迅速な支援～

- 大雨の期間：平成28年8月28日～31日
- 観測雨量：埼玉県秩父市三峰（24時間降水量245.5ミリ）
- 被害概要：人的被害（死者22人、行方不明者5名）  
住家被害（全壊502棟、床上浸水241棟）  
土砂災害（177件）  
(内閣府資料(平成28年11月16日)より)



●河川の増水による家屋の流出



●堤防決壊による浸水



●高齢者福祉施設の浸水

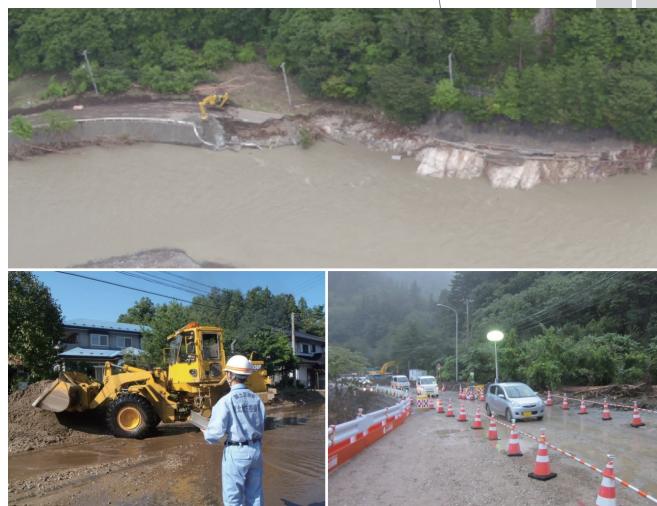
## 台風上陸前からのリエゾン派遣、早期の道路啓開。

台風上陸前から現地にリエゾンを派遣し、被災状況や支援ニーズ等を把握しました。

北海道南富良野町や岩手県宮古市などにおいては、発災後ただちに排水ポンプ車、照明車、衛星通信車等を派遣し、早急に排水作業に着手しました。また、多くの孤立集落を解消するため、道路啓開や道路の応急復旧を迅速に実施しました。



●24時間体制の緊急排水(北海道幕別町)



●国道455号の道路啓開や応急復旧

Message  
メッセージ



迅速で心強い支援により、市街地の3分の1が浸水する未曾有の災害を乗り越え、南富良野を取り戻すことができました。

北海道南富良野町 池部 彰 町長



災害状況の把握のみならず、将来の災害復旧事業の実施に向けた提案、助言を頂いたことは大変心強く思っております。

岩手県宮古市 山本 正徳 市長

平成29年 九州北部豪雨

# 陸から海まで総力を結集。

～あらゆる手段で流木除去を支援～

- 大雨の期間：平成29年6月30日～7月10日
- 観測雨量：福岡県朝倉市朝倉（24時間降水量545.5ミリ）
- 被害概要：人的被害（死者42人、行方不明者2名）  
住家被害（全壊325棟、床上浸水222棟）  
土砂災害（453件）  
(内閣府資料(平成30年1月17日)より)



●県道52号への土砂流出



●幹線道路の崩壊



●市街地への土砂・流木の流入

## ドローンによる流木調査、海洋環境整備船による流木の回収。

ドローンによる流木堆積状況の緊急調査を実施し、県が行う流木処理の迅速化を支援しました。

また、船舶航行の安全を確保するため、有明海・周防灘では九州地方整備局の海洋環境整備船3隻による流木の回収作業を実施しました。



●ドローンによる流木堆積状況の把握



●海洋環境整備船による流木の回収

Message  
メッセージ



土木系技術職員がいない村へのTEC-FORCEによる被災調査、応急復旧工法提案、災害査定支援等の技術的支援は、速やかな「復旧」ステージへの移行に繋がっています。

福岡県東峰村 濵谷 博昭 村長

# 培った技術で国際貢献。

## ～平成23年 タイの大洪水～

タイ政府からの要請を受け、地方整備局職員と排水ポンプ車10台を国際緊急援助隊として初めて海外に派遣しました。  
現地では、TEC-FORCEで培った技術を活かし排水作業に従事しました。

※地方整備局のほか、外務省、JICA、民間企業も参画



●現地で決意表明を行う国際緊急援助隊



●タイ政府関係者との排水計画の調整



●排水ポンプ車



●現地の作業員へ技術指導を行う地方整備局職員

ロジャナ工業団地での排水作業を皮切りに、  
アジア工科大学院や住宅地等で約810万m<sup>3</sup>  
(東京ドーム約7杯分、25mプール約23,000杯分)の  
排水に成功しました。



排水前の市街地の浸水状況（11/23）



●排水ポンプ車による緊急排水



排水後の市街地の状況（11/26）



Technical Emergency Control-FORCE

**TEC-FORCE**

首長からの  
メッセージ集  
...



鹿児島県奄美市  
**朝山 純** 市長

### 平成22年 奄美地方の大雨 ————— テックフォースへのメッセージ

本市は、鹿児島県本土から南西に約380km下った海上の南に位置した外海離島であり、その地理的条件から豊かな自然と、多くの希少動植物や独自の伝統文化を育んできた島であります。また、世界自然遺産登録を目指す中で、その価値が国内はもとより世界的にも認められており、誇りに思っているところであります。

そのような本市において、平成22年10月に発生した奄美豪雨災害では、24時間降水量が観測史上1位となる648mmを記録し、島内各地で河川の氾濫や土砂災害が発生し、主要幹線道路やライフルайнが同時多発的に寸断するなど、台風による災害を多く経験する本市でも、未曾有の大災害となりました。

被災状況全体がつかめない中、九州各地から国土交通省のTEC-FORCEに駆けつけていただき、防災ヘリコプター「はるかぜ」による被災調査で、全体の被害概要が迅速に把握出来たことは、災害対応の優先順位を判断する上で非常に助かりました。

そのほか、早期復旧のため、TEC-FORCEの現地調査班による道路・河川等の被災調査や復旧工法の提案やカメラ付き照明車による法面崩落箇所の24時間監視、さらに、衛星通信車を用いた画像の提供等の支援を頂き、昼夜問わず災害応急対策に尽力していただきましたことは、心身ともに疲弊した被災者のみならず多くの市民の励ましとなりました。

昨今、熊本地震や西日本豪雨災害等、想定外の大規模自然災害が多く発生する中、被害の拡大防止、災害応急対策の技術的支援を行うTEC-FORCEの役割は、発足10周年的節目を迎え、ますます重要なものとなっております。

TEC-FORCEをはじめ、日頃から防災・減災に携わるすべての皆様方のご尽力に敬意と感謝を申し上げますとともに、今後も国土交通省、TEC-FORCEとの連携・繋がりを深めて行ければと考えております。



岩手県陸前高田市  
**戸羽 太** 市長

### 平成23年 東日本大震災 ————— テックフォースへのメッセージ

陸前高田市は、平成23年3月11日の東日本大震災の未曾有の津波災害により、市街地を中心として壊滅的な被害に見舞われるとともに、津波が市内を流れる気仙川を遡上して多くの橋梁を流出させ、また、がれきが道路をふさいで緊急車両や支援物資輸送車両が通行できず、地域が一時的に孤立した状況となり、道路の啓開・橋梁の補修は非常に緊急的な課題がありました。

また、市役所庁舎をはじめとする殆どの公共施設が水没するとともに、市職員全体の4分の1を超える100人以上が犠牲となったことから、多くの人的資源が必要となる災害対応業務に職員を充てることが難しく、行政機能がストップしているような状況がありました。

そのような中、TEC-FORCEによる災害対策本部車の設置は、途方にくれていた私たちに勇気と希望を与えるものであり、迅速な道路啓開や橋梁の緊急補修は、救命・救援ルートの確保とともに復旧・復興事業の推進に大きな役割を果たしていただきました。

さらに、排水ポンプによる緊急排水により陸地に残った多くの海水を迅速且つ大量に汲み上げることができたことは、行方不明者の捜索活動を行う上で重要なことでありました。

また、リエゾンを通じ、東北地方整備局長と直接お話をさせていただき、「NOとは絶対に言わないでの、何でも言ってくれ」と言っていたいことは、非常に勇気づけられるものでした。

大規模な自然災害が頻発している近年、私たちが経験した様な大規模な災害に見舞われた自治体は、必要な支援も直ぐには把握できず、情報も発信できない状態となるものと考えられます。TEC-FORCEによる、被災状況の迅速な把握や被害の拡大防止、早期復旧等に対する技術的な支援などを積極的なツッシュ型により行っていただくことが、被災からの早急な復旧・復興に資するものと考えております。



奈良県十津川村  
**更谷 慶喜** 村長

### 平成23年 台風第12号

### テックフォースへのメッセージ

平成23年9月に本村に襲来した台風12号の被害は、明治の大水害以来の大きな被害となりました。山腹崩壊、道路が途絶したため多くの集落が孤立し、村職員の四割が出勤できない状況でTEC-FORCEの支援は、災害直後からの迅速な対応に、心強さと、感謝の念でいっぱいです。想像もしていない被害の大きさは初めての経験であり、災害対策本部の設置、指揮、マスコミ対応の方法など、今までの経験をもとにあらゆる面でご支援を頂きました。

災害当時は必要な物資が何なのかも把握しきれず、道路の寸断により孤立してしまう集落、ガソリンスタンドに燃料が入らないという事態が生じ、物資の搬入や配布など住民の移動手段にも大きな影響をあたえました。また、山腹崩壊で出来た土砂ダムは今なお、大雨の際の警戒態勢はとけておらず、ダムの決壊や堤防からの越流など地域住民の不安は続いております。

十津川村は面積の96%を山林が占め、この災害で生じた山腹崩壊は260haにも及び改めて山の大切さ、手入れの大切さを痛感いたしました。今後想定される南海トラフでは、紀伊半島を縦断する国道168号線は重要なアンカールートであり、紀伊半島のパイオニアとしてまさに「いのちの道」といえます。この国道の早期改良と、今後のTEC-FORCEの拡大、人員確保に期待いたします。

最後になりましたが、災害発生直後から迅速な支援に感謝いたしますとともに、今後、ますますのご活躍をお祈り申し上げます。



大分県日田市  
**原田 啓介** 市長

### 平成24年 九州北部豪雨

### テックフォースへのメッセージ

日田市は、大分県の西部に位置し、古くから北部九州の各地を結ぶ交通の要衝として栄え、江戸時代には幕府直轄地・天領として、九州の政治・経済・文化の中心地として発展しました。当時の歴史的な町並みや伝統文化は今なお脈々と受け継がれており、私塾「咸宜園」や塾と共に共生したまち「豆田町」等が教育遺産群として日本遺産に認定されています。

そんな日田市におきまして、平成24年7月の九州北部豪雨では、全半壊家屋430棟、床上床下浸水281棟、道路・河川・農地などの施設被害約32億円という甚大な被害を受けました。災害発生前には、国土交通省九州地方整備局筑後川河川事務所長から私の携帯電話に直接「豪雨災害の発生が懸念される」とホットラインで電話を頂き、職員に指示し大規模災害の発生に備えました。市内を流れる花月川が二度にわたり氾濫し市内が浸水、花月川の堤防が決壊するなど甚大な被害を受けました。九州地方整備局から、TEC-FORCEとして市にリエゾンが派遣され、市が設置した災害対策本部の隣の部屋に常駐頂き、国土交通省が所有する防災ヘリコプターによる調査映像を市の防災会議でリアルタイムに見せて貰ったり、排水ポンプ車支援の調整、花月川の堤防復旧工事、TEC-FORCE被災調査班との調整、被害情報等の提供など支援して頂きました。また、平成29年の九州北部豪雨災害時においても被災直後からの常駐による被災調査や応急復旧工事の支援を頂きました。合わせて、深く感謝申し上げます。



島根県津和野町  
下森 博之 町長

### 平成25年 山口・島根豪雨

#### テックフォースへのメッセージ

平成25年7月28日に本町を襲った豪雨は、行方不明者1名、重傷者1名のほか、損壊や浸水など住家被害は100棟を超える、道路やJRの線路が流失し、水道・電気・通信網等のライフラインが寸断するなど、町内各地に甚大な被害を及ぼしました。災害発生当日は、観測史上最大の降水量を記録し、短時間で河川が氾濫危険水位を超過するなど緊迫した状況の中、避難所の開設や避難勧告等の発令、孤立集落の救助支援要請など住民避難を優先的に実行し、被害状況が明らかになるにつれて、車両が通行できない生活道の応急対応や断水世帯の給水対応、臨時災害FM放送局の開設など限られた人員の中で様々な災害対応を迫られました。

このような中、国土交通省におかれましては速やかにTEC-FORCEを派遣いただき、災害発生翌日から13日間、中国・近畿・九州地方整備局から述べ903人の派遣隊員の皆さんに、昼夜を問わず、熱心にご対応いただきました。道路・河川の被害状況調査等の支援に加え、復旧工法の検討や被害額の算定などきめ細かい対応で、その後の復旧に多大なるお力添えをいただいたことにより、昨年、約4年の歳月をかけて復旧が完了しました。これも、TEC-FORCEをはじめとする関係の皆さまの献身的な対応のお蔭と心から感謝を申しあげます。

近年は激甚化する災害が頻発し、本年においても平成30年7月豪雨災害により、長期の避難生活を余儀なくされる方も少なくありません。被災自治体は、被災された方々が一日も早く安心した生活に戻れるよう、被災者支援や復旧業務を遂行しなければなりませんが、TEC-FORCEのご支援をいただくことで、自治体職員は住民対応に集中でき、早期の復旧・復興につながるものと感じております。今後も、様々な規模や種別の災害に応じた専門性を有するTEC-FORCEの迅速かつきめ細かい支援活動に心からご期待申しあげます。



埼玉県秩父市  
久喜 邦康 市長

### 平成26年 2月豪雪

#### テックフォースへのメッセージ

平成26年2月の大雪は、最深積雪量が98cmにも達し、観測史上最多となる積雪量となりました。山間地域では積雪量が約150cmとなり身の危険を感じるとの話もあり、市街地でも腰まで埋まる積雪量で、外に出ると身動きができない状況でした。災害対策本部では市内の除雪状況についての電話対応から、孤立の状況、被害状況などさまざまな出来事に対し、丁寧に対応するとともに、埼玉県の各機関、派遣された自衛隊との連絡調整にあたり、まさに不眠不休で対応を行いました。市内では、各鉄道や路線バスが運休となり、国県道も通行止めとなりました。市民生活では、着雪等による停電が発生し、水道は停電によるポンプ停止、さらには山岳地帯では取水槽が雪で埋まるなどの原因で断水いたしました。このように、秩父地域全体の交通網が遮断され、生活インフラが止まり、秩父地域が完全孤立してしまった状態となり、しかも山間部では早急な対応が求められた状況でした。

市長としての雪害に対する対応と所感を毎日掲載する傍ら、SNSへの投稿も欠かさず行いました。その影響もあったためか、各テレビ局の取材があり、メディアを通して多くの除雪協力を受けることができました。除雪活動では、県と連携の上、建設業者と水道・下水道指定工事店等にも協力を求め、人命救助を最優先に、主要幹線道路や停電を解消するために必要な道路等から、優先的に除雪を実施いたしました。しかし、除雪車が圧倒的に足らず、新潟県や十日町市からも大型除雪機による支援に来ていただきました。また、TEC-FORCE、各町会、市民、県内外からのボランティアなど、多くの方々のご協力の下、除雪作業を実施いたしました。

近年は、全国各地で未曾有のさまざまな災害が起きており、一自治体では対応が困難な場合も考えられることから、災害時の支援体制の強化に期待いたします。



徳島県三好市  
**黒川 征一** 市長

平成26年 **12月豪雪**

テックフォースへのメッセージ

平成26年12月に三好市など徳島県西部の山間部を襲った大雪により、各地で倒木被害が発生し道路が寸断され広範囲で集落の孤立を招きました。この倒木の影響により、電気・電話・テレビなどのケーブルも寸断され、孤立状態になった地域の方々の安否確認も困難を極めました。

本市にとって、ゲリラ豪雪は初めての経験であり、電気、電話、テレビなどのライフラインが切斷され通常の通信手段を用いての情報収集ができず、各種の対応に苦慮しました。また、現場へ行こうにも、雪や倒木などの影響で道路が遮断され、TEC-FORCEや自衛隊、森林組合などに啓開の支援を要請しましたが、啓開には非常に時間がかかりました。

このような状況下で、本市の災害対策本部設置時から国土交通省のリエゾンの方々が中心となり、経験のない大規模な災害対応への的確なご助言、被害状況の把握、また、小型除雪機の手配や指導、対策本部車、待機支援車の配備など、心強い支援をいただきました。さらに、国道192号の大雪対応においては、改正災害対策基本法が初めて適用（災害対策基本法に基づく区間の指定）され、立ち往生した車両の牽引や食料・燃料支援なども支援していただき、非常に心強い援軍となりました。

近年、三好市ではこの雪害をはじめ、豪雨等による土砂災害、浸水被害、渇水、凍結時の水道管破裂による大規模断水など、さまざまな災害が発生しています。また、近い将来には、南海トラフ地震や中央構造線断層帯を震源とする直下型地震などの発生も予想されます。各種の災害に対し、専門的見地からご助言並びにご支援を頂けるTEC-FORCEの存在は、災害現場で指揮を執る者としては非常に心強い存在であります。今後もTEC-FORCEの更なる体制強化を期待しております。



長野県王滝村  
**瀬戸 普** 村長

平成26年 **御嶽山の噴火**

テックフォースへのメッセージ

平成26年9月27日に発生した御嶽山噴火災害により犠牲となられた58名の御靈に謹んでお悔やみ申し上げます。また、未だ行方不明となられている5名の方が一刻も早く発見され自宅へ戻されることを心より願っております。

さて、当村は長野県の最西端に位置する人口800人弱の過疎化が進む小規模山村であり、村の総面積は、310.86km<sup>2</sup>と広大な面積がありますが、内84%が国有林で占められており住民生活圏域はわずかであります。村の経済は御嶽山に訪れる御嶽教崇拝の信者や一般登山者の受入れとおんたけスキー場などの観光産業を柱とした観光立村で成立つ農山村地域であります。

災害関係では、1979年有史以来の御嶽山噴火、1984年の長野県西部地震、再び2014年の御嶽山噴火、更に昨年の長野県南部地震と度重なる自然災害を経験して参りました。「災害は、忘れた頃にやってくる」と言われますが本当に感じられます。幾度となく発生する災害でしたが、2014年の御嶽山噴火の際には、発災直後から国交省でリエゾンを派遣していただき、災害対策本部に参加をいただき、判断に困った折などに私の右腕となって手腕の発揮をいただきました。また、災害直後の台風や降雨時の火山灰流出による二次災害防止のための調査、土石流シミュレーション策定など事細かく情報の提供をいただくと共に災害対策用機械の搬入による警戒対応など随分助けられました。

今後、何時発生するか判らない災害に即座に対応していただける国交省のテックフォースの活躍は、欠かすことのできない存在であり目を見張るものであります。多種多様な自然災害が発生することが想定される我が国において、重要な役割を果たすテックフォースは必要不可欠であり、今後の活躍をご期待申し上げます。



長野県小谷村  
松本 久志 村長

### 平成26年 長野県北部地震 テックフォースへのメッセージ

早いもので、小谷(おたり)村が神城断層地震(2014.11.22)で被災してから4年の月日が経ち、地震災害の復旧事業も完成を迎えています。小谷村は長野県の北西部に位置し新潟県糸魚川市に接する県境の山村で、糸魚川静岡構造線上に位置しています。

小さい村ですから職員数も限られ、特に土木や建築などの技術職員がいないため、発災時には必要となる道路の安全確認や被災した道路の応急復旧等、対策の判断ができない状況がありました。また橋梁などは、未経験の者では安全か否かの判断は難しいのが現状です。さらに、地震による地滑りも発生していたため、山腹崩壊による天然ダムの形成など、心配すべきことが数多くありました。

さいわい災害直後から、国土交通省や自衛隊、長野県などがリエゾンを派遣してくれたため、それぞれの対応を相談・お願いし、初期の混乱を乗り切ることができました。特に国土交通省TEC-FORCEの皆さんには、道路関係の被災調査・安全確認と土砂災害危険個所の緊急点検をお願いし、住民の安心と、災害の復旧に大きな技術支援をいただきました。

近年、豪雨や地震、火山噴火など自然災害が頻発し、平成30年7月豪雨災害では死者・行方不明者が200人を超える悲惨な状況と聞いています。一方、小谷村のような地方自治体では人口減少・高齢化が進み災害対応に必要な、「技術者」を確保できない現状があります。現場経験があり全国規模で活動できるTEC-FORCEは安全・安心のために必要な組織になっています。

国は頻発する自然災害の現状から、市町村等への技術支援はさらに必要になると理解し、専門技術職員や研究者の育成、地方整備局等の体制強化、TEC-FORCE等の組織強化を図るべきと考えています。



宮城県大崎市  
伊藤 康志 市長

### 平成27年 関東・東北豪雨 テックフォースへのメッセージ

大崎市は平成18年3月31日に平成の大合併により、1市6町が合併し誕生しました。東西に約80kmの長さを持ち、奥羽山脈から江合川と鳴瀬川の豊かな流れによって形成された、広大で肥沃な平野「大崎耕土」を有し、平成29年12月に国連食糧農業機関(FAO)より、持続可能な水田農業を支える「大崎耕土」の伝統的水管理システムが世界農業遺産に認定され、大崎地域の基盤である資源豊かな農業を活かした地域の活性化と、一層誇りある地域づくりを目指しております。

本市は、合併以前にも度々大水害に見舞われており、近年では東日本大震災からの復興の過程のなかで、平成27年9月渋井川など3河川で、9箇所が破堤するという未曾有の大洪水により、浸水の被害を受けた住宅や農地面積は約3,000ha、避難者数最大2,256人、家屋被害は床上浸水が205棟、床下浸水が490棟、農作物被害は約2,700haに及び米どころである本市においては、水稻の収穫期を迎える時期であり、浸水は農家にとって致命的な事態でした。また当時、渋井川など中小河川には水位計が設置されていない箇所があり、河川の状況を的確に把握することが難しく、広い範囲で浸水の通報があるなど職員はその対応に追われ人的、技術的に十分な災害対応は困難を極めていました。このような中、破堤した渋井川沿川に、全国から集結した国土交通省TEC-FORCEの排水ポンプ車12台が24時間体制で、昼夜を問わず迅速な支援を頂き、概ね1日で排水が完了することができました。本市にとりまして、これまで経験したことのない災害対応が迫られ、TEC-FORCEのご支援は早期復旧の大きな弾みとなりました。懸念されておりました米の品質においては、収穫量の93.6%が一等米で出荷出来たのも、TEC-FORCEの活躍と支援の賜物と衷心より感謝を申し上げます。排水が完了した状況に、市民全員の安堵は計り知れないものであり、心強い援軍でありました。

最近の自然災害は想定を超えて頻発するなか、地方自治体では専門的知識を持つ職員が少なく対応に苦慮しております。専門の職員派遣や復旧活動の支援など、迅速な対応と被害の拡大防止とともに、今後もTEC-FORCEによる支援が、被災地の早期の復旧に大きな力となるものと確信しております。



熊本県西原村  
**日置 和彦** 村長

平成28年 熊本地震

テックフォースへのメッセージ

「水と緑とひかりの村」西原村は、熊本県の熊本都市圏の東側に位置し、東部には阿蘇外輪山の一部である標高1,095mの俵山があり、雄大な景色を楽しむことが出来る、自然豊かな村で、人口増加を続けてきました。このような西原村において、平成28年4月14日と2日後の4月16日に発生した熊本地震では、16日1時25分に発生したマグニチュード7.3の本震により、当地においても最大震度7を記録するなどこれまでに経験したことが無い強い揺れに見舞われました。

西原村では、死者5名、災害関連死4名がお亡くなりになるなど、負傷者56名、家屋の全壊512棟、半壊以上1,377棟、停電、水道の断水、道路の陥没・崩落、トンネル・橋梁の損傷など、甚大な被害を被りました。役場では、被災直後の余震が続く中、庁舎の駐車場を災害対策本部とし、避難所の開設、水・食料・生活用品の確保、罹災証明書の発行事務、応急仮設住宅の確保などの対応に追われました。その様な中、国土交通省よりTEC-FORCEの派遣を頂き、リエゾンを通じたブルーシート等の資材提供・支援内容の調整、TEC-FORCEが被災調査班による道路・河川・橋梁・トンネル・山腹崩壊箇所調査等の支援を頂きました。中でも、リエゾンを通じた日本建設業連合会からの仮設執務室のユニットハウスの設置支援は大変ありがとうございました。また、その後の寸断された俵山トンネルルートの道路復旧・俵山トンネルの24時間体制での国による復旧支援は、平成28年12月24日には俵山トンネルの通行が再開され、復旧の加速化と地域経済の復興に繋がりました。

平成29年2月9日には、災害時にトップがなすべきこと協働策定会議に参加し、被災地からおくるメッセージとして、「災害時にトップがなすべきこと」をとりまとめさせて頂きましたが、その中で、平時の備えとして、「せめて自衛隊、国土交通省テックフォース、気象台等、他の機関がどのような支援能力を持っているか、事前に調べておくこと。連携の訓練等を通じて、遠慮なく「助けてほしい」と言える関係を築いておくこと」とメッセージを送らせて頂きました。

西原村におきましては、今、国・県のご指導をいただき災害公営住宅も完成し、各種生活支援や集落宅地復旧等、復旧・復興に向け全力で取り組んでおります。引き続き、ご支援をよろしくお願い申し上げます。



北海道南富良野町  
**池部 彰** 町長

平成28年 台風第10号

テックフォースへのメッセージ

8月上旬から断続的な雨が続き、8月22日の台風11号、そして8月30日の台風10号に伴う大雨で、記録的な集中豪雨となりました。空知川の堤防決壊によって特に本町中心地区である幾寅市街地の約三分の一が浸水し、公共施設や福祉施設をはじめ、多数の家屋の浸水や損壊、農用地の流亡などの被害に加え、JR根室線の鉄道施設が被災し、地域住民の生活や地域経済にとって記憶になく、経験したことのない甚大な自然災害となりました。

本町の災害対策本部の責任者として災害発生前の警戒予防活動から応急対策、復旧など一連の対応に、関係機関の協力を得ながら努めていましたが、結じて今回の災害は最大の要因である気象状況と集中豪雨がもとより、その災害の規模や発生箇所数、範囲においては、本町の防災能力や対応力をはるかに上回る規模の災害であったと受け止めています。

そのような状況下において、空知河川事務所などからは水位情報や技術的助言をいただき、被災直後からは延べ100人近い多くのTEC-FORCEの隊員の皆様に被災調査等に尽力いただきました。このような支援活動が懸命に元の生活を取り戻そうしている住民皆様の姿や延べ4,500人を超えるボランティアの皆様のご支援等と相まって本当に「力」と「希望」をいただきました。改めて心から感謝とお礼を申し上げます。

特に南富良野町の土木関係の技術職員については、一人二人という状況下のなかで、どのように対応にあたっていくか途方に暮れていた時に、自分自身の町が被災したかのように多くのTEC-FORCE隊員が支援に赴いてくれたこと、復旧に必要な技術的な助言をいただいたことは本当に早期の復旧につながりました。

今後はTEC-FORCEとして関わった被災地のその後を見せていただき、互いに振り返りながら技術レベルを向上させ、自然災害が頻発・激甚化している近年において止むことのない被災地の復旧に貢献していただくとともに、南富良野町としてその一助となれるることを期待しています。



岩手県宮古市  
**山本 正徳** 市長

### 平成28年 台風第10号

#### テックフォースへのメッセージ

宮古市は、市部では全国で8番目となる広大な面積を有しており、平成28年8月末に発生した台風第10号は、その広大な市内各所に様々な被害をもたらしました。総降水量が200mmを超える最大時間雨量は当市の観測史上最大の80mmを記録し、各道路で土砂崩れや冠水が発生、国道106号に至っては道路が流出し11日間に及ぶ全面通行止めとなりました。また、夜間にかけて市役所、市中心部等が冠水したことにより、被害状況の把握や応急復旧等が非常に困難となりました。

災害対応においては、まず何よりも市民の安全を最優先し、避難所の開設・運営、報道を見た遠方親族からの24時間の電話対応、さらに被災箇所の応急復旧対応など、限られた職員数で対応しなければなりませんでした。

市の機能が不完全な状況下で、早い段階でリエゾンに常駐して頂いたため、8月30日に市内冠水箇所への排水ポンプ車の要請、31日には東北地方整備局に支援を要請、9月1日以降、東北、近畿、中部地方整備局のTEC-FORCE隊が順次宮古市入り、被災箇所調査にあたって頂きました。

ドローン等の新しい技術によりインフラの災害状況を的確に把握し、年内の災害査定の受験に結びついたことは、早期復旧に向かって非常に意義のあることだと思っております。また、TEC-FORCEは必要な資機材や宿泊先等、全て自前で準備するため、市では作業スペースの提供のみで足り、調整はリエゾンが間に入り行うことから、安心して他の災害対応に当たれたと思っております。

当市はこれまで、東日本大震災及び平成28年台風第10号において、TEC-FORCEによる迅速な対応・支援を頂いており、改めて感謝申し上げます。今後も引き続きソフト、ハード両面において迅速な対応、ご支援をお願いいたします。



福岡県東峰村  
**瀧谷 博昭** 村長

### 平成29年 九州北部豪雨

#### テックフォースへのメッセージ

東峰村は、福岡県の南東部に位置し、伝統工芸品である「小石原焼」「高取焼」といった「陶の里」、また、日本棚田百選の「竹地区の棚田」、「宝珠山川のホタル」など日本の原風景に会える自然豊かな美しい村です。

平成29年7月5日の九州北部豪雨では、宝珠山庁舎雨量計で13時から22時までの9時間で700mmを超える降水量を記録し、その結果、大規模な土石流がいたるところで発生し、家屋流出、道路の寸断、田畠への土砂侵入、断水等々、甚大な被害となり、3名の方がお亡くなりになるなど本村始まって以来の悲痛な事態となりました。

災害発生当日、断線により通信網がすべて途絶え防災情報等も入手できないなか、TEC-FORCEによる衛星通信車派遣により、雨量レーダー等の入手が可能になり、その後の防災対応等に活かせたことは大変有益でありました。また、村内の主要道路である国道211号線は十数カ所が寸断し、孤立集落も発生したなか、TEC-FORCE及び建設業者の方々の昼夜を問わない懸命な道路啓開作業により、わずか1週間で緊急車両が通行可能となったことは、当時、この豪雨被害による衝撃を受け暗く沈んでいた村民の心を奮い立させた大きな出来事であり、大きな喜びがありました。

さらに、本村職員に土木系技術職員がいないなか、TEC-FORCEによる被災調査や応急復旧にむけた工法の提案、災害査定に関する支援等を頂いたことは、職員の負担軽減はもとより、速やかに「復旧」というステージに移行出来たと思っています。

この災害により技術職員不足を痛感し、また大規模災害になればなるほど、小さい自治体であればあるほど、国土交通省(TEC-FORCE)や福岡県、他の自治体からの支援は必要不可欠であると考えます。今後は、東峰村民が一体となり一日でも早く復興を成し遂げ、美しい故郷の風景、農業、伝統産業を取り戻したいと思っていますので、引き続きご支援のほどよろしくお願ひ申し上げます。ありがとうございました。



Technical Emergency Control-FORCE

**TEC-FORCE**

**TEC-FORCE年表**

...

# TEC-FORCE年表

## TEC-FORCEの変遷

### ◆平成20年4月25日： TEC-FORCE創設

- 国土交通省防災業務計画に、被災地方公共団体の災害応急対策を技術的に支援するため「緊急災害対策派遣隊(TEC-FORCE)」を設置することを規定した。
- 国土交通省では、TEC-FORCEの創設前から、災害時には被災地方公共団体への支援を実施していたが、TEC-FORCEの創設により、事前に人員や機材の派遣体制を確保し、平時より訓練や研修等を積み重ね、より迅速かつ効果的な対応が可能となった。

### ◆平成22年6月3日： TEC-FORCE派遣基準の改正

- 創設当初、TEC-FORCEは本省に災害対策本部が設置された場合または本省が非常体制※の場合に派遣することとしていたが、平成21年7月中国・九州北部豪雨などでは、本省が警戒体制※の中、各地方整備局はTEC-FORCEを派遣し、被災地方公共団体を支援することとなった。
- そのため、集中豪雨などにより被災地方公共団体が単独での対応が困難な場合に、地方整備局の判断で派遣できるよう基準を明確化した。

※国土交通本省の防災体制には、注意体制、警戒体制、非常体制の3段階があり、さらに非常体制の場合、必要に応じて災害対策本部を設置する。

### ◆平成24年5月28日： TEC-FORCEの体制強化

- 東日本大震災の教訓を踏まえ、大規模災害発生時に全国の地方整備局からの広域派遣や、派遣された隊員の被災地での統合的な運用が可能となるよう、「緊急災害対策派遣隊の設置に関する訓令」を規定し、指揮監督や事務局の体制等を明確化した。

### ◆平成25年3月12日：首都直下地震への対応

- 国土交通省業務継続計画に、東京23区で震度6弱以上※の揺れが観測された場合に、全国のTEC-FORCEが本省の指示を待たずに出動することを規定した。

※後に震度6強以上に改定。

平成20年

## 活動した主な災害

### 6月 岩手・宮城内陸地震



平成21年

### 7月 中国・九州北部豪雨



平成22年

### 10月 奄美地方の大雨



平成23年

### 3月 東日本大震災



平成24年

### 9月 台風第12号



平成25年

### 7月 九州北部豪雨



### 7月 山口・島根豪雨



### 10月 台風第26号

## TEC-FORCEの変遷

## 活動した主な災害

### ◆平成26年3月28日：南海トラフ地震への対応

- 南海トラフ地震防災対策推進基本計画(中央防災会議決定)に、「TEC-FORCE活動計画を策定し、迅速な派遣が実施できる体制を構築すること等が規定された。

### ◆平成26年4月1日：

#### 首都直下地震・南海トラフ地震への対応

- 国土交通省首都直下地震対策計画・南海トラフ巨大地震対策計画に、「あらかじめTEC-FORCE活動計画を策定し、これに基づいた迅速な派遣を実施することを規定した。

### ◆平成27年3月31日：首都直下地震への対応

- 首都直下地震緊急対策推進基本計画(閣議決定)に、「TEC-FORCE活動計画を策定し、迅速な派遣が実施できる体制を構築すること等が規定された。

### ◆平成27年4月10日：

#### TEC-FORCEの体制強化

- 本省水管理・国土保全局防災課に「緊急災害対策企画調整官」及び「緊急災害対策派遣官」を設置した。
- 関東地方整備局企画部に「緊急災害対策調整官」を設置した。

### ◆平成28年4月1日：

#### TEC-FORCEの体制強化

- 本省大臣官房に「交通緊急災害対策派遣官」を設置した。
- 中国・九州地方整備局企画部に「緊急災害対策調整官」を設置した。

### ◆平成28年8月24日：南海トラフ地震への対応

- 「南海トラフ巨大地震におけるTEC-FORCE活動計画」を策定した。

### ◆平成29年4月1日：

#### TEC-FORCEの体制強化

- 北陸・中部・近畿・四国地方整備局企画部に「緊急災害対策調整官」を設置した。

### ◆平成29年8月24日：首都直下地震への対応

- 「首都直下地震におけるTEC-FORCE活動計画」を策定した。

平成26年

平成27年

平成28年

平成29年

2月 豪雪

8月 広島土砂災害

9月 御嶽山噴火

11月 長野県北部地震

12月 豪雪

9月 関東・東北豪雨

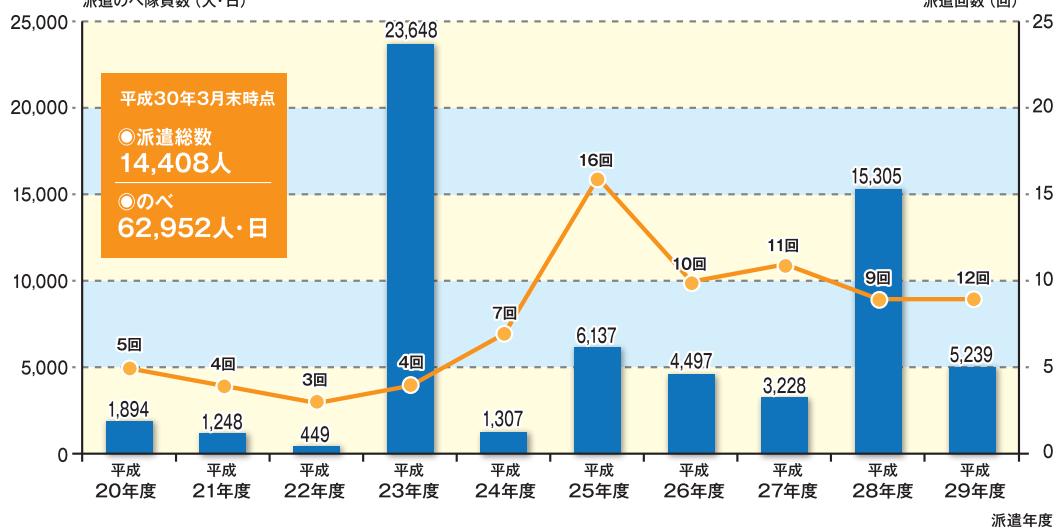
4月 熊本地震

8月 台風第10号

7月 九州北部豪雨

派遣のべ隊員数（人・日）

派遣回数（回）



※平成30年3月末時点





Technical Emergency Control-FORCE

TEC-FORCE

# 被災地支援に挑んだ 10年の記録

～「ありがとう」を力に変えて～



国土交通省 水管理・国土保全局

〒100-8918 東京都千代田区霞が関2-1-3

TEL.03-5253-8111 (代表番号)

<http://www.mlit.go.jp/index.html>